



2022年10月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本塩町 2-11
THE YMCA 神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町 2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/井上 真二
編集人/松森正樹
印刷/有わかばやし印刷

年間聖句 「あなたに平和、あなたの家に平和、あなたのものすべてに平和がありますように。」 サムエル記上 25章6節

ひがし きょうこ
神戸YMCA常議員・国際委員長 東 恭子さん

YMCAの重要な活動のひとつに、国際協力支援があります。その中の国際協力募金は、YMCAの国際協力に関連する活動に使われます。最も身近なものでは、神戸YMCA学院専門学校の留学生への奨学金(神戸YMCA国際奨学金)があります。その他、コースリーダーたちの育成という、次世代につなぐ活動に使われたり、神戸市内の国際に関わる活動団体への活動支援金として使われたりしています。コロナ禍で2年ほど開催されていませんが、12月恒例の街頭募金活動では、このような支援を受けた留学生や団体の方々も一緒に、街頭に立ち協働を呼びかけています。

寄附のあり方は多様化し、コロナ禍によってZoomやSNSによる協働の新たな形も経験しました。しかし、YMCAが変わらず活動の中心に置くことは、「協働の場、つながる機会を作り、対話やコミュニケーションの体験を通じて、その人自身の学びと成長に目を向ける」ということであり、この点においてYMCAの活動はとても地道だと言えます。

また、支援活動においても、YMCAがとりわけ重要にしているのは「継続」です。国内で毎年のように大きな災害を経験するようになった今日において、国外の出来事に目を向けるのは難しいかもしれません。国際協力という国と国、を想像しますが、これはあくまでも人間が作った便宜上の境界であり、本来、困っていることに境界はありません。国際協力には、国という垣根を越える意味があります。そして、「私たち(社会)は、忘れていない」というメッセージを送り続けることは、あらゆる問題の当事者にとって大切なことだと思います。募金は、この支援の原点とも言えるメッセージを示す重要なものです。

コロナ禍の社会全体の困難な状況もあり、国際協力募金も例外なく影響を受けています。例えば、通常、4名を選出する神戸YMCA国際奨学金が2名となりました。周知のように、厳しい状況を強い

「私たちは、忘れていない」メッセージを送り続けるための国際協力募金

れている留学生には、奨学金とは別に、食糧支援や、物資の支援など日常生活への支援がなされています。私たちは、こうしたニーズに合った活動を個別に行いながらも、通常の支援を継続したいと考えています。留学生には一人あたり12万円(6ヵ月)が支給されます。1万円なら12名、5千円なら24名、3千円なら40名の支援者で一人の留学生の支援が可能です。支援の輪を広げることも、国際協力募金活動の大切な役割だと言えます。

その時々で、緊急事案はあると思いますが、YMCAは継続的にアフガニスタン難民の支援やパレスチナ支援などを行っています。現在も続くロシアのウクライナへの軍事侵攻は、その衝撃だけではなく、同時に私たちに情報格差・支援格差の問題を提起しています。ウクライナへの支援の大きさや手厚さに、その緊迫性を認識しながらも、苦しい状況下にあって目を向けられない人々が存在することは前述のとおりでしょう。しかし、こうした非常事態においても他者への支援を止めない、ということはとても重要です。「忘れていない」。このメッセージの大切さ、重さを感じることが、この格差を目の前にした今こそ、改めて重要なことなのではないでしょうか。



こくさいのまど

第20回世界YMCA大会に参加して

西宮YMCA職員 藤原 梓

7月3日(日)~9日(土)、第20回世界YMCA大会がデンマークにて「IGNITE(火を付ける)」をテーマに開催されました。今回はコロナ禍ということもありハイブリッド形式で実施され、各国・地域から現地参加、オンライン参加をあわせて約2,500名という、過去最大級の大会となりました。たくさんのYMCAの人たちが写し出される画面はお祭りのような盛り上がりで、私はオンラインで参加しましたが、熱気が伝わってきて、まるで現地にいるような気持ちになりました。

今回のテーマ「IGNITE」が示すとおり、より良い世

界をつくるために世界のYMCAが一つとなって火を燃やし、YMCA運動を前進させることを目的としていました。大会では「VISION 2030」が採択され、①コミュニティウエルビーイング ②やりがいのある仕事と環境の創造 ③持続可能な地球のために ④公正な世界の実現のためにの4つの柱について話し合われました。「明日からそれぞれが発信し、声を上げていくことが大切」「またチャレンジしていくことを忘れない」と、熱い思いが語られました。素晴らしい瞬間に立ち会えたことに感謝しています。



神戸YMCAの国際活動

地域のこども園との協力

世界のお友だちについてお話を聞いたこどもたちが、ご家族と一緒に祈りを合わせて国際協力募金に協力してくださっています。



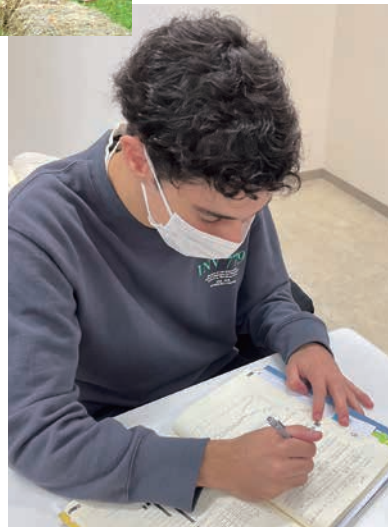
日本語サポーター

神戸YMCA学院専門学校日本語学科には、授業で学んだ日本語と一緒に練習するボランティアの日本語サポーターがいます。学生を支えてくださるボランティアに交通費を支給しています。



「Y-森のコーヒー」

神戸YMCAは、タイ山岳民族のコーヒー生産者と家族にケアを提供しています。このコーヒー豆の収益は神戸YMCA国際協力募金に捧げられます。神戸YMCA三宮会館で購入できます。



神戸YMCA

国際奨学金
神戸YMCAで学ぶ外国人留学生が勉学に専念できるよう奨学金を支給しています。

学校事業で ウクライナ避難者の日本語学習支援

今年2月、ロシア軍によるウクライナ侵攻により日本への避難を希望された1名のウクライナ人が来日しました。ポーランドYMCA、ヨーロッパYMCA同盟、日本YMCA同盟が連携し、来日までのサポートを行いました。その後も日本への入国相談が続き、7月18日までに68組151名の来日を日本YMCA同盟がサポートしました。

その中の1組が、やっとの思いで神戸に到着。そこで神戸YMCAは日本語学習支援を実施しました。日本語教室に参加された方は医師の資格を生かしたキャリア設計を希望され、とても熱心に日本語を学び始め

ました。現在は大学で医学の勉強に励んでおられます。

8月31日までに多くの皆さまから寄せられたウクライナ支援募金は、YMCAが行う支援活動に用いられます。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

日本語教室の最終日は7月6日でした。三宮会館の1階に飾った七夕の笹には、教室に参加された方の「Beautiful Sky」と書かれた短冊がありました。世界中どこへ行っても美しい空があることを願うウクライナ避難者の言葉の重みを受け止め、人々の平和を願い、活動を続けていきます。



YMCA STORY

神戸YMCAにおける国際事業 — 背後にある歴史的責任

神戸YMCAは、なぜ国際事業をするのでしょうか。限られた紙面ですが、歴史を辿って考察してみたいと思います。

日本に創立された都市YMCAで一番古いのは東京YMCAで、1880年です。神戸YMCAは大阪、横浜に次いで4番目で、1886年です。当時、明治政府は「大日本帝国憲法」を公布(1889年)し、翌年「教育勅語」を發布します。日清戦争(1894-1895)、日露戦争(1904-1905)を経て日本は、柳条湖事件(1931)、盧溝橋事件(1937)を起点として、第二次世界大戦に突き進んで行きました。

この時代、YMCAの国際事業は日本の戦争と大きく関係していました。とりわけ、日露戦争のときから第二次世界大戦までにYMCAが行った国際事業の代表的なものは「軍隊慰労事業」で、「皇軍慰問」活動とも呼ばれました。英語では「War Work」と呼称され注目を集め、初期の段階では北米YMCA同盟もこの事業のために多額の寄付金を集め、協力しました。

事業内容の中心は慰問使を戦地に送ることでした。韓国、満州(現中国北東部)の11カ所にテントを設営し慰問部を設けて、兵士の入浴所、洗面所、衣服の洗濯場、理髪所をつくりました。そのほか音楽、幻灯、講談、映画などの慰問、説教、宗教講話による伝道なども行ったようです。

戦後、日本のYMCAは1955年のパリ大会に参加し、国際協力活動を開始します。1960年代前半には海外諸組織への主事派遣を実現しています。1965年にアジアで初めて開催された、東山荘での第4回世界YMCA同盟総会では、国際協力に対する日本のYMCAの姿勢を一層積極的なものになりました。日本YMCA同盟は世界同盟総会終了後、同年10月に国際事業協議会を開催して方針を定め、国際協力・奉仕募金により、分かち合いを具体化することを決定しています。現在の国際協力募金の出発点です。

ここで特筆すべきは、この時点で国際協力事業の関心がアジア・太平洋地域に向けられたことです。

神戸YMCA常議員 山本 俊正さん

1969年に開催された第5回総会では、世界YMCAの国際協力の具体的な計画として、アフリカ、アジア、中南米に広がる難民の救済を優先課題とすることが決議され、1970年を「世界YMCA難民の年」と決めました。総会后、日本YMCA同盟はベトナムにおける難民事業とサイゴンYMCAへの協力のためにスタッフを派遣することを決定しています。戦後25年にして日本のYMCAは国際的に「受けるYMCA」から「貢献するYMCA」に姿勢を変えたのです。世界運動に連帯してアジアを中心とした国際協力に歩み出したのでした。

現在、神戸YMCAの国際事業は多種多様な領域でYMCAの国際的ミッションにチャレンジしています。一つひとつのプログラムに大切な意味が込められています。日本のアジアに対する戦後の歴史的責任もそのひとつです。日本YMCA基本原則には「私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます」と書かれています。

R E P O R T

YMCA保育園

コロナ禍のこどもたち × 自然体験

新型コロナウイルス感染症拡大は「こどもたちの成長にどのような影響があるのか?」そんな悩みや不安を持つ方々と語りながら過ごしてきたこの2年。コロナ禍の生活は非日常的生活ですが、長期間にわたると、これが日常のように感じてしまうときもあるのではないのでしょうか。しかし、マスクを着用し、食事も距離をとりながらの日々は、やはりこどもたちにとっては当たり前前の日常であってはなりません。

昨年夏にキャンプに行ったこどもたちは、「服も濡れていい?」「いいよ」「あの滝みたいなのところに行ってい

かな?」「いいよ」と徐々に不安を解消していき、30分も経たないうちに質問をすることもこどもたちはなく、夢中に川で遊び続けていました。飛び込むこどもたち、川の水を体でせき止めてダムをつくるこどもたち、川上へ上るこどもたち。一人ひとりの輝く目、生き生きとした表情は忘れることができません。

自然との共存は、人間が生きるための大きなテーマです。こどもたちは自由に遊ぶ権利があり、自然は人間性を取り戻す力をも備えていると感じています。



太山寺児童館

こどもたちの成長を願う夏休み

太山寺児童館では、この夏もさまざまな体験・プログラムを行いました。中庭での水遊びでは、「気持ちいい!」「楽しい!」と、暑さを吹き飛ばすほどのこどもたちの歓声と笑顔があふれました。夏の工作では、先生の説明を聞いて基本通りに作るだけでなく、作って遊びながら新たに加工をするなど、こどもならではの工夫がたくさん見られました。

また、YMCA保育園での保育体験では、幼いこどもたちとの関わりを通して、「かわいい」「やさしい」といった柔らかく温かな言葉を、体験後の感想

からたくさん聞くことができました。日々、こどもたちは児童館で異年齢と関わっていますが、いつも関わる仲間よりもさらに幼いこどもたちとの関わりから、「人を大切に作る気持ち」を育むことができたと思います。

夏休みの最後には、「夏の思い出会」を行いました。さまざまな体験を通して感じたことを思い返しながら、これらがこどもたちの心の栄養となり、成長の糧になるよう繋げていきたいと考えています。



あかしこども広場

支えられる側から支える側へ

あかしこども広場は、お腹の中にいる時(妊娠中)から高校生まで、幅広い年齢の子育てを地域でサポートする施設です。その中のひとつに「中高生世代交流施設 AKASHIユーススペース(ユースペ)」があります。ユースペの夏は、大学生と一緒に理科実験、すいか割り、音楽イベント、ムービーナイト、現役漁師さんに行く釣り体験、高校生保育講座など盛りだくさん!

オープンして6年目になる今年は、中高生だけでなく、中高生のときに利用していたこどもたちが大学生

となりサポートする側になって、さまざまな場所に関わりを持ってくれました。また、年齢の近い大学生に会いにユースペを訪れる中高生もいました。

あかしこども広場で乳幼児期、小学生時代を一緒に過ごしたこどもたちが中高生となりユースペへ繋がり、支えられる側から支える側に。高校を卒業しても「いつでも帰ってこられる場所」として、あかしこども広場を守り続けたいと思います。大人になっていくまでずっとそばで関わることができることに喜びを感じ、運営を続けていきたいと思っています。

灯台
Light House

No.36

総主事 井上 真二



YMCAロゴマークが変わって5年

2017年10月1日、「日本YMCA中期計画、YMCAブランドの革新による胎動から躍進へ」に基づき、130年を超える歴史の成果と価値を新たな未来へとつないでいくため、そしてこれからも多くの方々が必要とされ選ばれる存在となるために、日本YMCAは新しい旗印となるロゴとスローガンを掲げました。ロゴの愛称は「ポジティブY」。鳥が飛び立とうとする瞬間の姿をモチーフにしたシンボルは、一人ひとりの生命の息吹や未来へ向かう前向きな力、平和への想いを表現しています。そしてスローガンの「みつかる。つながる。よくなっていく。」はブランドコンセプトのエッセンスを魅力的に伝える端的なメッセージで、今後の対外的なコミュニケーション展

開の核としていくこととしました。

しかしながら、その後の世界規模のパンデミックにより、私たちが最も大切にしてきた人とのつながりや支え合いが絶たれ、いまだに出会うことや交わることに大きな制約を受けています。世界主要国のコロナ対策はノーマスク、行動制限の早期撤廃など日本とは全く異なる試みで、現状を打開していこうとする強い姿勢が見て取れます。日本ではマスク生活を維持しながら空港が国際線の運航を再開し、海外からの人の流れも徐々に緩和されてきています。

ロゴマークが変わって5年、コロナ禍の日々と対峙して3年。コロナをはじめとする困難な社会状況と共存していく中で、ミッションの象徴であるYMCAのマークを高く掲げ、暗闇を灯していきたいと思



スポーツを自由に、気楽に

「体育」と「スポーツ」は、どちらも体を動かす活動ですが、少しニュアンスが異なるように思います。「体育」は教育、「スポーツ」は気晴らしや楽しみ、そのような言葉が頭に浮かびます。体を動かす機会への参加スタイルも、社会の変化に合わせて少しずつ変化しています。

成人では、個人参加型のチームスポーツを楽しむ方が増えています。コートやアリーナを持つ施設が主催するサッカー、バスケットボール、バレーボールなどに一人で参加し、面識のない人たちとチームを組み、「ライトな」つながりの中でゲームを楽しみます。

森の学校『万物に驚く』

しあわせの村との協働事業として、2021年から「森の学校」が始まりました。「生活が遊びだったころを思い出せ」を合言葉に、天幕設営と火おこしに、朝来たら自動的に取り掛かります。できるようになるまで半年くらいかかります。森での暮らしになんとかそれらしさが出てきたら、さらに森に入って薪づくりを始めます。

ナラ枯れが目立つ森に入り、木を倒します。玉切りにした丸太を運びます。薪は斧と楔で割ります。木の皮を下にして積み、乾燥させます。そのすべてが「仕事」でありながら、こどもにとっては「遊び」です。

遊びと仕事に共通することは「自由」と「緊張」です。こどもたちにとって薪を作って火を起し、ご飯を食べて風呂に入ることすべて遊びなのです。刃物を手にするとき、刃物仕事のそばで手伝うとき、そこに緊張が生まれます。しかし刃物にも「遊び」があります。

「仕事」は、仕事相手が何を考え、何を思い、何をするとつり

ウエルネスセンター

YMCAのコーススポーツクラスに参加している、あるこどものおはなしです。YMCAで活動するまで、別のチームでそのスポーツを続けていました。うまくなりたいたい、楽しみたいと思いついて参加していましたが、さまざまな理由で楽しめなくなったそうです。「YMCAに来て心が自由になった。また楽しめるようになってうれしい」と話していました。

私たちが体を動かしたいとき、そこには「自由さ」「気楽さ」が重要になっているのではないのでしょうか。ぜひYMCAで「自由に」、「気楽に」、スポーツを楽しんでください。



キャンプサービス 阪田 晃一

なかを察知しなければ手伝えません。危険な仕事であればあるほど、息が合っていないと一緒に仕事ができないのです。最後の宮大工と言われた西岡常一は「木を組むには人の心を組む」と言いました。「仕事」とは誰かと心を合わせる事なのです。

「薪割りのための薪割り」はレクリエーションで、「火を作るための薪割り」は仕事です。かつてマルティン・ハイデガーは、誰のために木を切るのかを忘れてしまった木こりを例に、全体性を失った人間の生の在り方を批判しました。また社会学者の見田宗介は『自我の起源』の中で、森が二酸化炭素を吸い酸素を吐き出し、動物が酸素を吸い二酸化炭素を吐き出すような種を超えた交わりと、片方が欠ければ片方が存在しないこの世界のあり方に神秘を見ました。

森は僕たちに全体性を教えてくれます。特にこどもたちはその感受性で森の全体性に迫っていきます。そして「万物に驚く」その姿勢が、生きづらさを抱えた大人たちをも変えてしまうのです。

第23回 ワイワイまつり

すべての人々が平和に暮らせる社会をつくる国際協力活動・地域奉仕活動を支える「ワイワイまつり」を開催します。今年は感染防止対策として、時間別入替制で実施します。ステージやゲームコーナー、持ち帰りの手作りおやつ、のみの市などでの収益金の全額は、YMCA国際協力募金災害被災地支援、地域のこどもたちの水上安全活動、親子サポート活動、ユースボランティア育成に捧げます。ステージやゲームコーナー、毎年恒例のお楽しみ抽選会も実施します。

◆日 時:2022年10月22日(土)10:00~15:00

◆会 場:西神戸YMCA学園都市

◆入場料:1人300円 ※時間別入場券が必要です。

◆抽選券:1枚100円

入場券、抽選券は9/12(月)~10/10(月・祝)の期間に窓口で販売します。



詳細はこちらから

第24回 神戸YMCA インターナショナル・チャリティーラン2022

神戸YMCAに集まった支援金で「障がいのあるこどもたちが、YMCAの夏のキャンプに参加できるように！」との願いから始められました。今年は新型コロナウイルス感染防止対策を講じて実施いたします。秋の1日、のんびりとウォーキングを楽しみながら、障がいのあるこどもたちに思いを寄せてみませんか。皆さまのご支援をお願いいたします。

◆日 時:2022年11月23日(水・祝)

◆会 場:しあわせの村

(運動広場およびジョギングコース)

●皆さまの参加費が支援金となります。

●主旨にご賛同いただき、ご協賛いただける企業様、個人様も募集しています。

●詳細が決まり次第、ホームページにてお知らせいたします。

神戸YMCA 検索 「募集・予告」をご覧ください。

※状況により内容などを変更させていただく場合があります。予めご了承ください。

感謝・寄附

(敬称略、順不同) (前号掲載以降~8/20現在)

寄附

藤本 敏隆、澤井 恵子、社会福祉法人光朔会オリンピア、特定非営利活動法人クルーズ、神戸YMCAベルクワイアー、宝塚ワイズメンズクラブ、芦屋ワイズメンズクラブ

国際協力募金

村上 愛子、学校法人頌栄保育学院頌栄幼稚園

ウクライナ支援募金

村上 愛子、KDDI株式会社関西支社、社会福祉法人神戸真生塾、日本基督教団芦屋西教会、日本基督教団西神戸教会、日本基督教団尼崎教会、ディンドンリンガーズ

学生生活支援募金

杉原 賢治、村上 愛子、さんだワイズメンズクラブ

この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。感謝をもってご報告します。

神戸YMCAの使命 (日本YMCA基本原則)

- イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学びます。
- すべての人びとの全人的な成長を願い、いのちを守り育てます。
- 人権を守り、喜びと痛みを分かちあう社会をめざします。
- 世界の人びとと共に、平和の実現に努めます。

神戸YMCAの願い(神戸YMCA中期計画2020)

すべての「いのち」が光り輝くように、これを守り育てます。そのための活動に世代を超えた市民の参加を求め、その活動を通して新しいコミュニティを創造します。

ファミリーウエルネスセンター
ランゲージセンター
専門学校
西宮YMCA
余島野外活動センター
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)
国際・奉仕センター
ウエルネスセンター学園都市
西神戸YMCA
神戸YMCA高等学院
YMCAおひさま

☎078(241)7202
☎078(241)7204
☎078(241)7203
☎0798(35)5987
☎0879(62)2241
☎078(241)7216
☎078(241)7204
☎078(793)7401
☎078(793)7402
☎078(793)7435
☎078(793)9077

西神南YMCA
須磨YMCA
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
西神戸YMCA保育園
神戸学園都市YMCAこども園
神戸YMCAちとせ幼稚園
YMCAちとせ保育ルーム
西神戸YMCA幼稚園
西宮つとがわYMCA保育園
あかしこども広場
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(993)1560
☎078(734)0183
☎078(794)3901
☎0798(35)5992
☎078(792)1011
☎078(791)2955
☎078(732)3542
☎078(786)3821
☎078(997)7705
☎0798(26)1016
☎078(918)6355
☎078(794)3045

